

安齋叢書

二十七

五武器談上

和書門	二五〇九一	類
函號	一一三	類
架	二	類
冊	二八	類

內閣文庫	和書
二五〇九一	類
二八冊	類
一六架	類
一五三函	類

內閣文庫	番號	和 25091
冊數	28 (27)	
函號	153	279



Handwritten mark or character at the top right of the page.



五武器談乃序

僧徒ノ佛具の事或同たりん不知れと蓋ハいふ

醫師ノ藥物の事或同たりん不知れと蓋ハいふ

以テ兵士ノ武器の事と同たりん不知れと

蓋ハいふ如く一々ぬり予ウ友南朝多ク其

政の義も同し事或好む人あり其部 の世史

より其意の事とよと一々出〜〜予小宮

予又其乃の事あり〜〜其意の事〜〜い

知るにされ〜〜其意の事〜〜い

よ其の〜〜其意の事〜〜い

出〜〜其意の事〜〜い



さきとけかきけりし物とてし物幻人の心
さきとけかきけりし物とてし物幻人の心

明和八年辛卯十月廿

貞丈書

山陽の久松藩に在りし書物
保元物語本
平治物語本
平家物語本
源平盛衰記本
右平記本

五武总记

總目

上卷

保元物語本
平治物語本
平家物語本
源平盛衰記本
右平記本

下卷

山陽の久松藩に在りし書物
保元物語本
平治物語本
平家物語本
源平盛衰記本
右平記本

凡例

- 一 世書ハ或人の同書ニ一紙ノ自筆の本ハ同紙ノ人ハ傍リぬ是も人ハ命して家と欠たるは年等の中小忌禮小記すといふハ年我忌禮之色禮小記すと云ふハ禮色禮ニテ多書列小なり
- 一 各年記小ありてハ本文を前々年ナリして各年本文と略し只条目と出しくも名物のしくは常禮ぬ本文とハ其条目付く本書しくむ
- 一 世書と年我忌禮并禮色禮とハ一紙のきくこれらと各々考せハ本意のち補と知るの一物とも成らん

係元物指式巻禮

伊勢平尾貞丈著

- 一 巻盛うち路へ向ふあつたその指衣はつぎ糸の履りふありしたる急向一の糸白星の胃と志し切あつた二兩友のち指馬小黒鞆をくぞ糸よりけれ

- あつたその指衣ハ是禮のハ小指衣と志して履ひたつた小用ひをくあつたハ相曹抄ふ
- 袂水色とわり白き色ハ白きと書(き)事
- あれも袂のちとつたといふハ装束乃
- 強抄小袂のちとつた例多
- 袂と色の名ハつたに装束のちと志ん

○ 愚所の矢を愚川の矢とも云平我意後不記しぬ

○ 愚りこの夏の事ハ愚後不記しぬ 愚後ハ平我意後不記しぬ

○ かのくハ貝靴之螺田の靴之喜貝のく

一 為朝ハ七人許ある男の目々ところへ付されたるがちん
多々の糸をよそて柳子の丸縫たる物とれりハ龍の
しハ後とせしき白き唐後とよそあしたたる大つめの
の後日しきとて金のうらたるとさるあふふとあす
のち力小態の皮此あり靴入六人法のらちき七人
あすよとくばくおとふ世六さしたる愚所の矢あひ甲ハ
屏のふおせて

○ ちん小色との糸とりて柳子の丸縫たる事意を

云々ぬのかち布あり後ものしたる物とれあり
後重意を

○ 八龍といふ後とせしき白き唐後とよそあしたる

大つめの後とせしき白き唐後とよそあしたる
の神を知りし平作物諸小意源を我平八龍
の後とせしたる事と記しき眼板小龍とハッ
おと付つるとり竹山せとの事も龍ハッ有る
○ 物金物と見し大つめの矢の事ハ後とせしき
まの唐後威の事ハ愚後不記しぬ
○ 同しき金の金物おたるとハ同の事ハ白き唐
後おとしと移く云るくしそれハむお板不

○ 桐子の金物と折たる成りし者の金物一布、
○ のかあねと者八龍の似せたる襪のうぶ又この
○ 襪とわらひのそくつるものなり

○ 熊の皮の履箱は後ふきなりぬ

○ 六人張のうらハ口人すくおしたる一人つとをく
ると云長サ七人あすと云ハ口とくらのた帯ハ七
人あすとを例とんまをくの口の寸少く七人
あす之無為約のうら七人あすと云たるハ曲人ふ
七人あすとしあるべし為約の刃れたけ七人
あふあふ人すく七人あすのうらハあねと短し
短うんハうはよしこれハ六人張ありあねと

わこつまりあるハあねはわらへしはきと云人とて七

人あすとしあるべし為約の口の七人あすなりハ
七人あすもけりる山も及あねしあ人の定あるあ

○ かくしあたるものあつし 是れハあつし長持の持
小もさたりとわり

○ はく折たるしと云ハらのころうの正矢さうのあつ折

○ 行と折たるハあまのこふしよりころれき矢はほれ
ぬねるを平記しハあまの好ふより古代軍より

○ かるし折あつし遊人人の好ふより古代軍より
ふハあまあつし折たるをあらうハ行と折てし
の弱もあつし折たる合せするうハ行折たる
行折てはらのよらんふあつし

○ 可六拾考うらひ腹ふさしたる夫の扱へよこしと小
 かそつろく思相の事ハ前より見へり二十六日小
 六つ二十六とさる見相をたけありさし拾考あり
 一 義朝と評判小百考る赤代の綿のむくこれに拾考し
 下正二
 引きくされふ斗小方刀幸たる

○ 赤代の綿此赤意ハ地の赤き綿此赤意とよ
 ○ 織はちの定りる
 ○ 拾考はしハ今世侍考ふしと云ふのく拾考し
 のり若後ふ記しぬ考の拾考ふしやまかまて
 胃のりよも考し胃とぬきそりこれハ五考ふし
 小も有り又拾考ふしそきこのき斗もきふあり

○ 今のこくかこくぬりたるを思ふハ赤意ハ右
 ○ 五きたてハ五いたくとも云古代の部正の漢ハ右の
 眼ハ含つて右五きられてり其のきしを根柄
 少くふさくこ若用の付漢赤意と考くむくこれの
 五右眼五いたくとりて漢と漢と友漢と考く
 漢とぬきたると見ハ五いたて右眼を付て何らく
 赤代朝の赤代とありたる神漢とぬきそり赤たれ
 神くけ付小百と採りてハそのきく考しと
 ○ 小具足の出と云く
 一 四時片あり——保むこの赤意ハ月数とよ漢のお
 系色の唐綾と考わしたると考ハ四考たれ大中

馬の矢しうふ願ありしま夏のらふ中あはく月毛
あり馬しうみ鞍をくそありたりり

○ 住むこのま意ハ減比ハ行そ十何色地色ハわく
しく而も村まのしく住こ保くく之住の保ハ
保そちしん燈のしくしくして保たう

○ 月夜の後ハ保家五代ハ燭の澄のその二ツあり
朽まふとハ胡曹抄小書朽葉赤朽葉黄朽葉
赤のあし見くく朽葉ハ今世黄く葉と
しの色ありそれ小書しかりけりハ書朽葉が赤
あまハ赤朽葉少黄かちあれハ黄朽葉之座後
少て減比しうハ凌をたみく系減のしくさる

○ 戸口さしたるハ後さる後之口六下世とさる大中思ハ
若後小記しぬ

○ かしうふ願と云ハ矢の比どかりうく願とよめり
うくとよまハ矢ぬきうくき之武説ふ矢人長ヤあ
比ふく見あると云ハ比之大男ハ矢人長し小男と
矢人短し長男あゑの矢人あゑハ夫のとき
あとしふハ那あり

○ 志け友のらも若後イ志るしぬ
○ うみ鞍若後小記しぬ

二四
一 三年外の節をありを少しおしうたて山毛の尾とめて
しうふ七寸み分の丸根篋中をきそてのしうたて

うりくま

○三年竹の節をうると云ハ矢竹の三年竹たるをわきくしてはよし節をきハ竹片よし山竹の竹とてそく子細も有申し云後もわれとも何の子細もあし其人の好まふはつて

○七寸六分の丸根と云ハ征矢の根の長き事とて之を例ハ寸又ハ一寸六分と有丸根とハ柳系事なるの類の根の中をりの志のき角とてうりくまをいふは後さたき之近世高麗の形のとくある根ふふと付て丸根といひ又ハ根のこく定ぬりしたる根と丸根と名付たると有そのハ古書に

丸根ハハりた

○菟中をたぐのしつりつとハ菟中のまかもれるく長くのしりのまをいふのしつりとハ夫の根のあり之菟の中へ入るも

一重盛生年十九葉在代の綿此重葉よおしたる威一の隠り白星のかふとを忌ふ四したる中黒の毛有ニ所及のうたぐく黄うりつけあるるなり

○赤代の隠れ重葉あはえたり
○おもたうあとしの隠ハ急流あまたうの毛と
○毛の糸一とたり

○ 白星の如ふと云はれ小あらし思

○ 赤星の如ふと云はれ小あらし思

○ 中黒の夫若流大中黒の条に記しぬ

○ 二不夜のら若流よりあるしぬ

一 伊勢の赤の任人山田小三郎これおたと云 中略 赤かま

威の遣は同毛のふねかあといひし十八さし

たる海舟の夫あひ思りこめ此夜のらもそ麻乞

なる馬より黒鞍をきく系たりりり

○ 黒かまおとしの遣は若流小黒年おとし

○ 大所ふめの赤よ志しぬ

○ 同毛ハ遣と同一とくわぬうおとし志こ流あね

産のありいふひと云ふしとハかあをとかしりふ

けりうあをききむけ小款の夫も左のしおれ

也あふツ新しうると勇りれはるり

○ 十八さしたるハ遣小あをと云十六と云しと云し

あり 海舟ハ警此 意白の羽と赤くもきく

何まふし 遣り

○ ゆりこめ夜のらハ若流小記しぬ

黒鞍首よこしり

一 二六 月川くとも月あつそしりのしりぬりかたりと

つりりかあとの隈小村付たり

○ 月川くと云ハ流川くとも

○ 石川ぬりむさかひの事之類よりゆきてそのゆきり
 民のまふまきくかへるあつたぬりゆきしはもと
 ありむかしの民のいふ似るる曹の神のともなる
 ちと石川ぬりとてまへに人なりし神中より
 つひに二つふまうりし後ふまうりしはもと
 とまひりやまうりし二つふまうりしはもと
 それハ後神といふゆきしはもと
 ちと石川ぬりゆきしはもと
 ゆりゆりゆきしはもと
 ちと石川ぬりゆきしはもと
 ちと石川ぬりゆきしはもと
 ちと石川ぬりゆきしはもと

○ 石川ぬりゆきしはもと
 ○ ちと石川ぬりゆきしはもと
 ○ ちと石川ぬりゆきしはもと
 ○ ちと石川ぬりゆきしはもと
 ○ ちと石川ぬりゆきしはもと
 ○ ちと石川ぬりゆきしはもと
 ○ ちと石川ぬりゆきしはもと
 ○ ちと石川ぬりゆきしはもと
 ○ ちと石川ぬりゆきしはもと
 ○ ちと石川ぬりゆきしはもと

二九
 一 大将と赤地の神此由意、黒系おとしの禮、淋
 形おきかかるとて、黒系馬小黒鞍をくさり
 たりり、中略、清和天皇九代の後胤、此も源氏也
 ○ 赤地の神の由意、赤小黒鞍たり
 ○ 黒系威の禮、黒系馬小黒鞍たり

○ 秋形ノ事一若シテ白星ノウケルルカトシテ秋形ナラ

○ 糸小ノ事一ノ記シぬ

○ 志欲前ノ事一ノ記シぬ

一 志草成ノ後ナラズシテ打テカカトシテ志糟毛ナル馬ニ
示シテ別高ト名スル

○ 志草成ノ後志欲ノ記シぬ 志草成トシテノ大ウケノ
糸小ノ事一ノ記シぬ

○ たくづノ事一ノ記シぬ 牛角ノ
事一ノ記シぬ

一 金子十斤ハ志草目ウケノ志欲小ノ事一ノ記シぬ
志草成ノ馬一ノ事一ノ記シぬ

○ 志け目儀ノ事一ノ記シぬ 志草成トシテ志け目ウケノ
志欲ノ
糸小ノ事一ノ記シぬ

○ ぬ一ノ事一ノ記シぬ 志草成トシテ志欲ノ
事一ノ記シぬ

○ 志草前ノ事一ノ記シぬ

一 木蘭地ノ志欲一ノ事一ノ記シぬ 志草成トシテ志欲ノ
事一ノ記シぬ

○ 志草成ノ事一ノ記シぬ 志草成トシテ志欲ノ
事一ノ記シぬ

一 志草成ノ後志欲ハ志草成トシテ志欲ノ事一ノ記シぬ
志草成トシテ志欲ノ事一ノ記シぬ

○ 大橋ハ一ノ事一ノ記シぬ 志草成トシテ志欲ノ
事一ノ記シぬ

- 穴明りの穴と月と云け月も風今より音なり
- かやの先小はりのまゝとまけまゝはひもいふの
- 上より肩の首へあぐり板乃らひ川の流り
- 糸金と志むるはく今世の流の右根の川合の流と
- 言はると是たる人あり此の言ひも小つやせれ
- りんとハキととる川時言ひも小弦の流りたるを
- りあと言ひものうけ合せのうとあひひもせん
- たんの板り流めさうりたるをよめる
- 矢後不とハキのりさるとは流るといふ去月を
- 云も月

一 根の井此大流をりひさうのち意入り卯の花おとしの

後り白星のめあをそ流る馬小宗たう進とせ

- 河の流りのち意ハ藍の糸をいひ流とまらぬ
- たるとまゝこちのめあぬもいひさうるとも藍
- 是う又朝廷大孝と云あるとの附と忘ころもあひす
- 白化小まゝく流りとちりしてすくは換本小布を
- 流もまゝあひひし指まハ換本の流のちまゝく
- りあは流とまらるとのちまゝり流と云蔵人つく
- 終合の流まゝくたり
- 卯の花おとしの流まゝ流る記しぬ
- 星白りかかるとハ白星の骨之白星の骨を流
- 不記しぬ

一 糸列直為美くきぬの車意ふうはうのときと云ふとし
の澤小形打たるかあときと云連後あり毛ある馬
白ぬく主人の鞆をくそきくれり

○ ころきぬの車意も信と装束ふ用うころ信の
ふりりのりよそくたりたるぬき用ひるとはきぬやと
いふまどうちくちくかふはやとあはさうち信と
云武布、長信の車意と有りち中り人の初くこれ
たの車意のときくきぬのときくあつぬきを
きくときと有り信と有りハ長信の書信りた
房全ハ係象重代八頃の後の一の古代の後の
牛の板目羊とそれと信と云きはうきれ全少

作りたるあへんう福と名付くありくきぬの澤ハ
牛千段のあきさの羊と作りくきぬの澤ハ色例のとき
あふうはうのとき作りしを名付くありしぬ

- 細威の車ハ長信と云く記しぬ
- 淋形の車も長信と記す
- 白ぬく主人の鞆此前後の編此山うきぬふ
信と云ふく主人とかけきくきぬの澤ハ長信と
信鞆と云き

一 為朝ま川と云く今本成と云くあきぬのものを打伏
きんと云

○ 今本ハりあきく摺のあき今の本ハりあきと云く本

○のまはこころむしお摺のまをうへにかきたるくちりあこは
おとあひお摺の水桶をふるお摺をまゐるくちり湯友
ふくこのはしきさるれくちりあこをおとるありくちりあこ
おとるありくちり

○おとるありくちり
○おとるありくちり
○おとるありくちり
○おとるありくちり
○おとるありくちり
○おとるありくちり
○おとるありくちり
○おとるありくちり
○おとるありくちり
○おとるありくちり

平治物語武意流

伊勢平家貞文著

一 白く黒くする神ある馬二匹瀆くをまきり立たり

○ 白黒を二匹の馬にまきりてゐる馬とハ二匹神の

馬とハ二匹 別の本小きうていゝるまきり
ちりくちりくちり

○ 瀆新ハ意流小礼しぬ 又本川百十系ゆ洋
くちりくちり

一 家貞ハ志け目おひの志意くちりひ皮の瀆をまき
ちりハきくちり

○ 志事目おひの志意くちりハ意流三ツ志けめおひの

・ 糸ハ礼しぬ

○ ちりひ皮の瀆意流おとるしぬ

一 其外物をたかして奉らうハいふととのまの竹抄の